石算研だより

石教研算数部会事務局
江別市立豊幌小学校内
2018年9月12日（水）
NO.4
文責　　中村　玲太

石算研 実技・理論研修会終了しました

８月２３日（木）に、今年度の実技・理論研修会を実施しましたので、当日の様子などをお伝えいたします。講師として、東京学芸大学附属 小金井小学校　加固希支男 先生をお招きし、江別市立大麻東小学校５年生 今井 先生の学級をお借りして、授業実践を公開していただきました。さらに「数学的な見方・考え方を働かせて学ぶ子の育成～数学的活動の充実を通して～」というテーマで講演をしていただきました。

特設授業「平均」５学年 今井学級
「平均を出す必要感を児童にもたせるための教材」ということで、「オレンジが３０個あります。３０個全てのオレンジから取れるジュースの量は何 mL になると考えられるでしょうか？」という問題場面が設定されました。数個から全体量を予測するときに「かけ算が使える」ことから、数理的処理の良さに子どもたちが気づくという「しかけ」がありました。

キーワードは「発想の源を問う」
師範授業後に行われた講演は「どうしてそうしようと思ったの？」という発問で、なんとなく解いていた子どもの「発想の源」を言語化することの良さを話していただきました。発想の源を問うことで、考え方の共通点に気づきやすくなり、統合しやすくなるそうです。すぐ実践したくなるようなアドバイスをたくさんご教授くださいました。

参加者アンケートでは、「発想の源を問うこと、知っている知識を使って新たなやり方を創造していくという算数授業の組み立て方を、今後の実践に生かしていきたい」「教材研究を進めるうえで、考えなければならないことを改めて考えるきっかけになった」等、日常実践についての記述が多数ありました。

今回の台風２１号と胆振東部地震において、部会員のみなさんはもちろん、ご家族、ご友人、知人などはご無事だったでしょうか。余震もまだ続いておりますので、必要以上に不安感を持つ必要はありませんが、十分警戒して毎日の生活を送ってほしいと願っています。と同時に、これ以上の天災が起こらないことを祈るばかりです。

最後になりましたが、各市町村の第二次研究協議会や指導案検討等が中止や延期になったところもあり、推進委員のみなさんを中心に、授業者、責任者、提言者のみなさんも対応に追われていることと思います。本当にご苦労さまです。こんなときでも、「子どもたちの笑顔のため」に、私たち自身も「笑顔」を忘れず、日常の教育活動に携わっていきましょう。どうぞ今後ともご理解、ご協力よろしくお願いいたします。